

第1回 ふくしま元気トーク まとめ



【開催概要】

| | | | |
|-----|---|---|-----------------------|
| 日時 | 令和2年11月21日（土） 午前10時30分～正午 | | |
| テーマ | 創業のまちふくしまを考える | | |
| 場所 | ki-ichigo 交流サロン（コラッセふくしま12階） | | |
| 出席者 | （1）渡辺明美さん （2）新城榮一さん （3）青木美和子さん （福島市） | （4）関口もえさん （5）加藤絵美さん （6）縦山和宏さん 木幡市長 | （7）中野友登さん （8）朴栄光さん |

【1 市長あいさつ】

コロナウイルスの関係で1つ大いに注目を浴びたのが、テレワークや地方移住というものであります。あるいはワーケーションですね。福島市でも早手を打ちまして、これはチャンスだということで、サテライトオフィスあるいは本社機能のオフィスと呼び込むためのいろんな支援策、福島ならではのゆとりや楽しみを味わってもらいながら移していただくという対策も手がけております。今、福島市政でも企業誘致とかいろいろ頑張っているんですけども、一方で大事なものは地元の中で既存の企業が新規の分野にどんどん進出をしていく、あるいはこれまで起業していなかった方がどんどん起業していく、これをやらないとやっぱり本物の力にならないというように思っております。



足元の施策などを見ていると、どうもあまり太い流れになっていないというのが、正直なところ反省しているところであります。ぜひ流れをつくり出したいなと思っております。やっぱり福島は一種の創業者同士が化学反応を起こしてどんどんと広がっていくような、そういう状況にはなっていないなと思っておりました。

ついては、ぜひそういう動きをこれからつくっていきなと思ひまして、今回ぜひこの創業の環境をテーマにしたいなと思ひ、市内で頑張っておられる皆さんをいろいろとピックアップさせていただいて、そして今日お集まりになっていただいたと思ひます。

ぜひ皆さんには、これから福島市が内部からも外部からも、新しいことで次々と仕事生まれ、そしてそれが伸びていくようなまち、広がっていくような、そんなまちにしていくにはどうしたらいいかということをお話ししていただき、議論できればいいと思っておりますので、ぜひ遠慮なくお話をいただければと思ひます。

【2 主な発言内容】

（1）自身の創業について

●朴栄光さん：2013年に福島にやってきました。最初は駅前のイーストビルから始めて、今は野田町三丁目にFISTという研究所兼工場兼オフィスのような場所、そして今、ライブ配信のスタジオを兼ね備えた場所をつくっております。

●中野友登さん：創業は福島大学3年生のときにしまして、Fukushima-BASEというコワーキングも構えながら、その中で創業者と切磋琢磨しながら事業を進めている段階になります。本業としては、ウェブサイトやアプリの開発、また映像制作と今だとデジタル化の最も早く運用に乗せるマニュアルという形で新規事業としてスタートをしている段階です。

- 縦山和宏さん：果樹農家をしておりまして、私で5代目となります。一次産業の観点から意見を述べられたらなと思います。
- 加藤絵美さん：令和2年9月にYellowBeerWorksというビール屋さんを大笹生につくりました。私としては福島の中でも大笹生というところに何かもっともっと人が集まるように仕向けていきたいなと思っていろんな活動をしています。
- 関口もえさん：自分が学んだことをほかの人に伝えたいという気持ちで立ち上げたのが日本酒学会です。日本の酒学、つまりアルコール文化を追求したいという形で2年前に創立させていただきました。
- 青木美和子さん：趣味を生かして何かできないかなということで、日本一だと思っている福島の果物と日本酒のコラボレーションということでコンポートにして、今販売させていただいています。
- 新城榮一さん：福島駅西口のインキュベートルームという県の施設で16年、支援者側で創業者の方のサポートをさせていただいております。
- 渡辺明美さん：私はお母さんたちと一緒に活動していくというところからコラボスペースC.O.C.O.というところも運営しているんですけども、そこで女性にターゲットを絞った創業のための勉強会なんかも開催しています。女性ならではの視点で、女性の起業についてや、女性が事業をうまくいくためにはどのようにしたらいいのかというような、私の経験から来る視点ですけども自分なりのものを提供したりしています。

市長

○女性としてというお話がありました。実を言うと、やっぱりいろんな面で特に福島社会の場合は保守的なので、男性がかなりいろんな面で支配的に動いているんですね。それで、女性ならではの視点が全然ないというのが私も気づいていまして、市のいろいろな会議でも女性に入ってもらおうようにしています。やっぱりそういった性差と言っちゃいけないんですけども、それまでの経験から来る違いというものはうまく反映させながら、いろんな取組みをしなきゃいけないかなと思っています。



(2) 創業をしていく中で苦労したこと、創業から一定の軌道に乗るまでの苦労

- 苦労したのは務という字がつくもので、労務、税務、財務、法務です。これを解決するためには、失敗談を聞ける環境というのが一番必要かなと思います。福島ならではの信用できるコミュニティーで安心して失敗談を聞くことができる、本当の意味での与信機能を持ったまちにできればいいと思います。
- 創業して悩んだことは、切磋琢磨する人が身近に少ないことです。体力がなくなってきたときに、隣にでも同じようにベンチャーで頑張っているみたいな人たちがいれば、それだけで一歩踏み出せるようになると思うので、スタート段階で少し先を行っている人がいる環境というのが一番大事なんじゃないかなと思います。
- 直売所のお客さんって結構年代が高めだったんですけども、なるべく20代・30代・40代の女性やファミリー層などに果物をもっと受け入れていただきたいという目的で、こじやれた感じで直売所をオープンしたり、新しくいろいろやっていきたいなということは思っています。加工なども今後はやっていきたいなと思っています。
- 農業は働き手がいなくなってきているので、新しく新規参入してくれる農家さんがいてくれればいいです。そういう流れに農家の農業のほうもなっていくといいかなと思います。

- 就農したときから稲作農業の課題は見えていて、どんどん田んぼを農家が手放し土地が荒れていくことが簡単に予想ができたんですね。その基盤整備もされているところで大きくやるために起業し、今年ライスセンターという巨大な設備を建てまして、効率の良い便利な設備になりました。
- 農業の面で一番の課題は規模感と人のバランスだと思います。農業という分野に関してはそんなに儲かる会社ではないので、本当は人が欲しいけれども、そこを我慢して踏ん張ろうという状況が結構続くので難しいと思っています。それでも社員を増やしていきたいし、なぜ社員を増やすかといったら、いずれは独立してほしいと思っていますんですね。人は増やしたい、ただちょっとバランスが悪いということで新たな農作業以外のところで何かできないかというものを常に今は考えている状況です。
- 起業するに当たって私は2つの大きなネックにぶつかりました。1つ目は女性であるため家庭と両立すること、2つ目が年齢的な問題でした。子供が巣立った後に自分で何かやろうかな、起業しようというときにとても起業しづらいところがありました。どんどん寿命のほうも延びてきていますし、これからは福島市の女性は夢を持って50歳過ぎてからでも起業ができるくらいの夢も希望もある福島市に向かっていってほしいなと思います。
- 一番困ったのは、加工する場所がないことでした。最初の試作する段階の際に加工品を研究したりできるような場所が福島市にもできればいいのかなと思います。
- 販売するところを一から自分で見つけなくてはいけないことが大変でした。販売場所についてサポートしていただければまとまるのかなと感じます。
- 支援側なんですけど、インキュベートルームをうちがやっていくための戦略というのを考えてたときに、この事業を始めた当時、一番ちょっと大変だったことかなと思っています。
- 挑戦させてもらう環境が見つからなかったことと、なかなかつながりが持てなかったことが問題でした。やはり女性は知識やお金、法律などが分からないので、解決するために助けてくれる人がいるような場所がスタートアップの時点で見えてくるとすごく助かるのかなと思います。
- 地方に足りていない3つの部分というのを考えたときに、1つ目は成長できる環境、2つ目が県外や海外から仕事を持ってこられる環境、3つ目として切磋琢磨できるコミュニティができる環境がないなと感じていました。2つ目に関しては、発信力の部分ですね、個で発信をしてしまっ、その発信力を使うまでに時間がかかっています。今やろうとしているのは、F u k u s h i m a - B A S E としての発信力をもって、その中の人たちを引き上げてあげられるような格好をつくりたいなと考えています。

市長

- 行政関係の起業支援の講座等は、本当の大事な部分というのは伝わらない面があるのだと思います。そういった意味では、創業の関係者同士で伝え合えるような、環境が必要だと思います。
- 農業は、新規参入者に対してのサポートがより大事になってくるんですね。農業分野でメンター制度を作り、気軽に聞ける人の仕組みをつくったら全然変わるんじゃないかなというのは、実は検討させています。
- 加工場所については役所がつくるというよりも、民間同士で一緒にやったり、あるいは貸して借りてやってもらう方が、融通が利いていいのかななんて感じがしますよね。民間の方の場所をうまく一緒に利用できるようなにつなげていくことが新しいような感じがしました。
- 福島って情報発信で言えば、うまくやればほかにも絶対通じるわけです。今、外部からの人材を取り入れていて、それが例えばメディアニュースなどでも出してもらうことで、全国的にも広がって行って、それが一種のクリエイティブなフリーランスさんとかにも響いて反響があったりします。また単に外部人材に頼らないで内部でも育てて行って、それも駆使できるようにすると、そういう人と実際の事業をやる人が結びついていきさらに発信力を高めることになるんですね。

(3) 創業支援に求められること

- 創業はあまり環境を整えて起業するぞというよりも、まず負の部分を引き出して、それを事業化してあげるかというところが、スタートは大事なんじゃないかなと思いました。
- 女性は資格が手に入ることで自分に自信を持ってまた次のステップに行くというところが何か求めていると思います。気軽に無料で学びの場を受けられるような窓口をつくってもらい、市のほうとしてもどんどん発信して、知識と学びもできるような体制をつくっていただけたらいいなと思っております。
- 福島市オリジナルの果物検定とか、そういった技術の検定があったら楽しく市で盛り上がるかなと思います。資格をとることで自信を持って社会に出る、一步のステップ、そこから何か新たな夢を見つけて出すきっかけになってほしいです。
- 女性と男性の創業における明らかな違いは、女性は何かしたいんだけどもどうしたらいいんだろうというような初期段階のステージの方が多いことです。そこに関しては、今起業アテンダントという存在を育成しており、ちょっと先に進んだ先輩、気軽に聞きに行けるような存在を市内に何人かつくり、そういった方につないでいただけるような仕組みを進めています。
- 補助頼りに創業を続けていくと、補助がないと事業として成り立たなくなったり、周りの誰かが助けてくれないと形にできないという人が増えそうなところもあるので全部助ければいけないわけではないと思います。
- 経営者の視点でお金の使い方を練習していくことが重要だと思います。行政からいただいたお金であったりとか、お客様からいただいたお金であったりとか、相手の期待値に対して応えられなかったら大体トラブルになり、そこには責任が伴うという経験を少しずつさせるといふところの意識というのは、すごい重要だと思います。
- メンター制度等として、地方でこれからやるべきなのは教えるというよりも経験のシェアだと思います。教えたらその先生以上の人は育たなくなります。まだその先生が今人生で成功しているかというのが分からない中で、教えるのではなく経験のシェアという形にとどめた方が、教えられたことにより、やりたいことが変わってしまったみたいなお話にはならなくていいのかなと思います。
- コワーキングで行うのはとにかく壁打ちです。本人たちの中でそれは何でこうやっているのか聞くと、自分の中で考えとして整理できてきて、相談も自分で解決して帰りたいなことがすごい多いのです。

市長

- 手軽に資格にチャレンジできるというのは、大事だと思います。ただ、サービスには正当な対価がある程度いるので、無料は良くないと思います。
- 資格にはグレードや中身があるなかで、その中でも自信につながるものはかなり広く、ある意味では多少乱発しても構わないと思います。
- 補助頼りにするのではなく、出口戦略を見ながらやらないといけないし、多少厳しめでもやらないといけないのは事実だと思います。やはり創意工夫が生きる仕組みをつくらないと多分生き残れないと思います。
- まずは自分が何をやりたいかというのであって、そのやりたいものの中に見える補助金があったら使えばいいだけです。行政の補助金も使ってやるぐらいの気持ちでまずやらないといけないし、ただ一方であまりにもニーズに合わない事業はいけないので、弾力的に切替えられるようにしなきゃいけないというのも必要だと思います。
- 経験のシェアも非常に大事な視点だと思います。

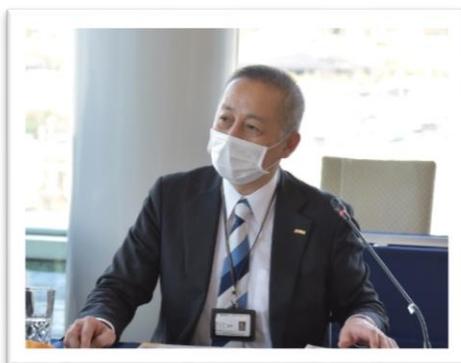


(4) その他

- 東日本大震災のときに、世界各国の支援物資や航空便は全てスカイパークに集結しました。ただ、そのときに燃料がなかったという問題があったんですね。スカイパークにジェット燃料と航空燃料を地下タンクに貯蔵して給油できるようになれば、最高の防災クリティカルマネジメント、災害時のことを想定したものが福島にあるんですよという、福島しか持てないストーリーになると思います。
- 若い世代に関しては、経験談を聞くというよりも経験をしていかないと本物にならないと思うので、最初の段階で何か手を出すのではなく、本当に行き詰まったときに、どれだけ手を差し伸べられる環境があるかどうかだけなのかなと思っています。
- この地区はIT関係、この地区は医療関係というように、地区ごとにクリエイターの人たちが集積することで余計切磋琢磨になって何か盛り上がっていくんじゃないかなと思いました。

市長

- スカイパークの燃料地下タンクについては、市の公共サービスではなく、全国的な危機管理の中でやるような話だと思います。昔、消防大学のときに、スカイパークを全体的な防災のような場所にできないかという話が来たんですが、訓練するにも母体がないので、無理と答えました。ただ、全面的な防災はできなくてもロボットテストフィールドのドローンに傾斜してやっていけば訓練母体がなくても大丈夫なので、つなげていけないかなと思っています。
- 経験をしていくことは、創業の場面に限らず、教育段階から、あるいは家庭教育の中にそういう面があってくるのかなという気がします。
- 同じ集積でもいいし、分野の集積も面白いと思います。例えば、化学の起業で今一番必要なのはITなんですよ。創造的な人がまさに創造力を発揮する場って型にはまらないのが一番いいのだろうと思います。なので、両面考えていろんな集積をつくっていかないとかなと思っています。



【3 まとめ】

いろいろ皆さんからご意見いただいて、我々もこれから皆さんが経験されたものをシェアさせていただいて、そして福島は創業のまち、あるいは自分自身、福島チャレンジフィールドなんていう実は仕組みもつくったりもしていますので、チャレンジするのにふさわしいまちになるようにいろいろと環境整備というか、仕掛けをつくっていきたいと思います。

そのためには、またいろいろとお世話になることもあろうかと思っておりますので、今後とも我々の取組みに対する一定のサポートと、皆さんこれまで以上に今日の縁も大切にいただきながらどんどんと突き進んでいただければというふうに思いますので、どうかよろしく願いいたします。ありがとうございました。



出席者の感想

- 大変意義のある時間でした。普段聞かせていただけないような参加者様の話も良かったです。
- どうしても1人あたりの発言は少なくなるので、時間を長くすることが難しければ人数はもう少し少なくても良いと思います。
- 市長と話ができる機会は大変貴重な時間だと思いますので、色々なテーマについて幅広く意見を聞ける有意義な時間を過ごせました。
- とても良い事業内容だと思います。これからも是非続けて頂きたいと思います。もし可能であれば同じテーマで同じメンバーでの続編などもやって頂けるとよりリアルになると思いました。今回の事業に参加できとても勉強になり刺激を頂きましたこと、感謝しております。ありがとうございました
- 開催時間は夜だと有難いです。

